

14「牛や羊や鳩を売っている者たち」

- ・神殿で献げるいけにえのための家畜。
- ・遠方から来る者たちにとっては助かった。

14「両替をしている者たち」

- ・ユダヤ人の成人男性はみな、半シェケルを税金として取めなければならなかった（出30:11-14）。これは神殿税か（マタイ17:24-27）
- ・ユダヤ人はディアスポラとして各地に散らばっていたため、様々な外国貨幣を使っていた。しかし、宮への税金はユダヤ硬貨であるシェケルを使わなければならなかったので、両替人がいた。



礼拝で献げるいけにえや納税のために、家畜の売買人や両替人がいたことは、過ぎ越しの祭を祝う上では、「便利」であったことだろう。

16「わたしの父の家」

- ・イエスは「宮」や「神殿」ではなく、「わたしの父の家」と呼んでいる。イエスが12歳の頃にエルサレムに上った時も同じように言っている（ルカ2:49）。ユダヤ人とイエスの間には、目の前の建物に対する認識の違いが見られる。ユダヤ人にとっては、祭りの際に訪れて礼拝を献げる神殿や宮であったが、イエスにとってはそこは「父の家」であった。
- ・並行箇所のマタイ（21:12-13）、マルコ（11:15-17）、ルカ（19:45-46）では、「わたしの家」と呼ばれる。これらいずれの箇所においても「わたしの家は祈りの家と呼ばれる。…それなのにおまへたちは強盗の巣にしている」と、イエスは過ぎ越しの祭の商業化を批判している。



父の子であるイエスから見ると、祭りのための「利便性」という建前で、過ぎ越しの祭が商業化されていたことは、父とイエスの住まいが、第三者によって侵入され、汚されることを意味した。

17「あなたの家を思う熱心が私を食い尽くす」

- ・詩篇69:9からの引用。ダビデの詩篇。

Psa. 69:7 あなたのことで私はそしりを受け
恥辱が私の顔をおおっているのです。

Psa. 69:8 私は自分の兄弟から のけ者にされ
母の子らにはよそ者となりました。

Psa. 69:9 それはあなたの家を思う熱心が
私を食い尽くし
あなたを嘲る者たちの嘲りが
私に降りかかったからです。

- ・ダビデは神のことでそしりを受け、恥辱が彼の顔を覆っている（7節）。さらに自分の兄弟（母の子ら）からのけものにされ、よそ者とされた（8節）。それというの、神の家を思う熱心がダビデを食い尽くし、神を嘲る者たちの嘲りがダビデに降りかかったから（9節）。



ダビデは神の家を思う熱心さのあまり、内外からそしられ、孤立していた。

↓

イエスも神の家を思う熱心さのあまり、商売人からもユダヤ人からも理解されず、孤立していた。

18 「どんなしるしを見せてくれるのか」

・普通、イエスがここで行ったことは許されない。しかし、メシアであるならば、例外的に許される。したがって、メシアとしてのしるしを要求している。

19 「この神殿」

〈神の臨在の場〉

旧約			新約					
祭壇	→	幕屋	→	神殿	→	イエス	→	キリスト者・教会

・ユダヤ人は目の前の神殿を指していると考えたが、イエスは自らの身体を指して言った。
・神の臨在の場は変遷してきた（上図）。
・イエスは神殿、すなわち、神が臨在する場所は「自分の肉体」だと言った。彼の肉体に神が宿っていることを暗示的に語っている。「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた」（1:14）
・ユダヤ人は誰もこのようなことを言わなかった。いや、言うてはならなかった。唯一の神を冒瀆する行為であったから。

19 「わたしは、三日でそれをよみがえらせる」

・ユダヤ人の質問に対するイエスの回答。十字架の死から三日目の復活がメシアとしてのしるし。
・この福音書が書かれた当時、神殿はローマ軍によってすでに破壊されていた。ユダヤ教の中心である神殿が破壊されなくなっていた。しかし、イエス・キリストの身体という神殿は破壊されても、よみがえった。ここにはユダヤ教の神殿祭儀の終焉とキリスト教の礼拝の永遠性の対比が暗示されているのかもしれない。

22 「イエスが死人の中からよみがえられたとき」

・この時点では、弟子たちにもイエスのこの言葉の真意がわからなかった。

22 「聖書とイエスが言われたことばを信じた」

・イエスの言葉だけではなく、旧約聖書も信じた。メシアのよみがえりを旧約聖書が証言していると信じた。

23 「多くの人々がイエスの行われたしるしを見て、その名を信じた。」

・どのようなしるしかは明らかでないが、メシアとしてのしるしを行い、人々はイエスを信じた。

24 「彼らに自分をお任せにならなかった」

25 「イエスは、人のうちに何があるかを知っておられたのである」

・イエスは人々が心に抱いているメシアに対する期待や願望を知っていた。したがって、彼らが望む「メシア像」を引き受けて、その期待に応える（＝彼らに自分を任せる）ことはしなかった。それが神の子が地上に来られた目的ではなかったから。